



先生が欲しい！

学園長 小島 澄人

クリスマス、そう呟いた時、そこにはもうクリスマスがやって来ています。キリストの誕生、救い主の誕生です。クリスマス、そう思う時、あなたの中にもうクリスマスが始まっています。誰かにその喜びを知らせたい。我が子に、友だちに、仲間に、それを言葉にしたり物を贈ったりする、その伝統的なシンボルの「サンタ」、楽しみです。誰もがまず「ありがとう」を、そして誰かに「ごめんね」を言えるようになると良いですね。

3歳児の先生が一人ひとりに、サンタさんをお願いを聞いていると、ある男の子が「先生が欲しい！」と言ったようです。いつまでも先生と一緒に遊べるし楽しいことばかり、どんなおもちゃよりも勿論欲しいですよ。物よりも言葉、更には人なのかも知れません。今年度は特に身近な家族の中での贈り物が多いかも。物とは別にお母さんの「おもいっきりのことば」を掛けてみると良いですね。

私のサンタへの願いは、幼い時母が作ってくれていた「かんころもち」ですね。しばらく食べてないですが、この時期になるといつも美味しかったなあ。きっとプレゼントするお金がなかったのかもしれない。かんころもちとは、サツマイモをふかし芋にし、そのふかし芋を餅米と一緒に搗いて作る芋の「もち」です。きっと餅米をたくさん買えないところからの発想から生まれた、今で言う特産品です。そしてクリスマスを迎えるに当たっての私の思いは、言葉は、「せんせいたち」にありがとうございます。コロナ禍の中、本当によく頑張ってくれました。仕事をするからには本気で子どもたちに関わることです。一生懸命な姿は忘れられません。端から見るより様々な気苦労があったに違いない。また保護者の皆さんに「ありがとう」を伝えたい。

心配なことがいっぱい、気になることがいっぱい、子育てに、仕事に、……。頼もしく見えました。コロナ禍の中、子どもたちを預かる立場上、いろんな事が言葉として、手紙として次々とやって来ますが、先生を、保護者の皆さんを信じて保育をやっていきます。今年度もあと僅かとなりましたが、来年度も頑張ります。

サンタさん、今年度もよろしく願いいたします。どんなに些細な事も見のがさず気持ちに伝えてください。プレゼントを目にする子どもたちの顔が本当に素敵です。

